

受験時代の恩師S会員より急遽、お話を頂き、このような執筆の機会をいただきましたことにまず感謝致します。

早速、本題に入りますと、これまで目指す弁理士像を特に明確に描いていたわけではありませんので、

「いいくに（1192）作ろう鎌倉幕府」に肖った弁理士登録番号（11920）を戴いたこともあり、「**いいくに作ろう岩永勇二!!**」を私の目指す弁理士像にしようと先程、決意しました。菅先生のように政治家になりたいというわけではなく、弁理士としてプロフェッショナルな仕事をし、また知的財産権の普及発展に貢献をして、いい国・いい世界にしたい、ということでしょうか（ちょっと抽象的ですね）。

私のような小人には果てしなく高い理想のように思えますが、今まで同様、「まあ、なんとかなるだろう」精神で一つ一つ達成していきたい（いつかは大器になれるかな）。

してみると、やるべきことは山ほどあります。ただ、それが全部できるほど人生長くもなさそうです。やるべきことに目を向けていると息苦しくなってくるので、やりたいことから順にやっていきたい。やりたいことがなくなったときに、結果的にやるべきことがすべて達成され、その甲斐あって good な世の中になっていたら最高にうれしいですね。

目指す弁理士像への過程において

<Chapter 1>

「家裁の人」という漫画を片岡鶴太郎さん主演でTVドラマ化したものが以前に放映されていました。また、最近では、キムタク主演で検事を扱ったドラマ「HERO」が放映されていました。「人が泣ける、感動する」、そんな弁理士生活を送りたいです（ミーハーすぎますか？）。

<Chapter 2>

子供の頃に画用紙に自分のアイデアを書いて特許庁に送ったところ、「出願して下さい」と返送されてきたことがありますが、かなりのお金がかかると知って諦めました。特許で金儲けしようとするなんて生意気なお子様でございましたが（笑）、断念したときは何とも言えない「さみしさと悲しさ」を感じた覚えがあります。中学生のタレントが稼いでいるように、発明をして稼ぐ中高生がたくさん出てきてもよいのではないかな。ここには自分の思い入れもあるので、いろいろとやっていきたいと思います。

<Chapter 3>

世界中の特許アトニーから学びたい。そして「いいくに作ろう！」で協力しあいたい。とすると、やっぱり問題は英会話力ですね（勉強します）。

国内においても、幸いなことにお手本にすべき先達が私の周りにはたくさんいます。また、昨年は、アメリカにも1ヵ月ほど勉強に行かせて頂き、知的財産権界の素晴らしき方々にお会いして大いに触発されました。一つ一つ吸収していきたいです。

最後に

そして、こんな私を支えてくれる（であろう）お嫁さんと3月に結婚しました。

足もとがグラついていては、「いいくに」もなにもあったものではありませんので、「（特許マインドに富んだ？）いい家庭」を築くことがまず先決です。幸せにしますので、安心してね。